

シリアの混乱は誰の責任かって？ プーチンだよ！

【訳者注】シリアが混乱して大量の難民が流れ出している。どうすれば解決できるのかという問いに対して、グローバル・エリートや彼らの御用新聞は、「それはもっと爆撃してシリアの独裁者を叩くことだ」と答え、「彼を支援するプーチンが悪いのだ」と言う。納得する人があるだろうか？ ほとんどの人が納得できないだろう。しかし、シリアがどうして今のようになったのか、その真相を知らない人が多いと思われるので、それをわかり易く説明したこれを訳してみた。

本論の後半で言っているように——アメリカは、他国の領土に許可なしに入り込んで、やりたい放題をやるのが許されるが、ロシアは、たとえ許可を得た上でも、救助のために入ることは許されない。——この異常が異常とも意識されず、新聞はこれが当たり前で、合法であるかのように書き立てる。そういう世界に、我々は飼いならされて生きている。

By Robert Parry

September 13, 2015, Consortiumnews.com

公的なワシントンの新しい“統一見解”は、ロシア大統領プーチンこそシリア危機の責任者だということである——イラクを侵略することによって、現在の中東の混乱を招いたのはネオコンとジョージ・W・ブッシュ大統領であり、アルカーイダを資金援助したのはサウジアラビアであり、“政権交替”を企んだのはイスラエルであるにも関わらず。

Lindsey Graham 上院議員は、中東に関しては、ほとんどすべてを考え違いしていたかもしれない。しかし少なくとも彼はアメリカ人に対し、正直にこう言った——シリアとイラクにおける戦争の現在の成り行きを考えれば、この地域のアメリカの再侵略と、アメリカの富を奪い、無数のシリア人とイラク人を殺し、何万とは言わなくても、何千の米軍兵士を死に追いやっているシリアの、無期限の軍事的占領が必要であろう…

グレアムの不気味な無限戦争の予言は、彼の支持率が1パーセントに満たないことの要因の一つかもしれない。これは、最も頑固な共和党員でも、あのイラク戦争は再び経験したくないと思っているしるかもしれない。シリアの混乱については、もちろん他のオプションがあり、ロシアやイランと協力して、イスラム国やアルカーイダの拡大を防ぎ、ダマスカスにおける協議による権力分有も考えられる。しかしそのような現実的なアイデアは、いまだに考慮の外にある。

公的なワシントンの“統一見解”は、シリア大統領バシヤール・アル・アサドは除かねばならぬということ、アメリカの外交官はひたすら「政権交替」を突きつけ、真剣な妥協は全く考えないということ、そして米政府は、ロシアやイランの援助を妨害しなければならない——たとえ、それによってアサドの世俗的政権が崩壊し、アルカーイダ/イスラム国の勝利に道を開くことになっても——ということである。

もちろん、もしそんな勝利に終わったら、ごうごうたる避難の声が上がり、その指先は、弱腰だったオバマ大統領に向けられるものと、あらゆる地政学的問題の一手引き受け役のプーチン大統領に向けられるものと、二つに分かれるだろう。この金曜日、メリーランド州フォート・ミードでの談話で、オバマは、悪いのはプーチンだという論点を展開した。

<http://www.c-span.org/video/?328042-2/president-obama-remarks-fort-meade>

オバマは、プーチンが、アメリカの望む“政権交替”をシリアに課すことに協力しないという非難した。しかしオバマの“アサドは除かねばならぬ”という処方箋は、アメリカのアフガニスタン、イラク、リビア、およびウクライナでの経験から明らかなように、それ自体のリスクを伴っている。指定した“悪者”を追い出したからといって、“良い者”が必ずしもそれに取って代わりはしない。

むしろ“政権交替”は、目標となった国家の真空に、過激主義者が入ってくることによって、流血の混乱につながることが多い。こうした交替を思い通りに行うことができるという考えは、傲慢なフィクションであって、ワシントンのシンクタンクの会議では支持された名案でも、現実にはそううまくいかない。

しかも、アサドを非難する口実を作り上げるには、「戦略的報道」という要素が必要だった。心理作戦、プロパガンダ、PRをミックスした、米政府のための新しいキャッチフレーズがなければならない。ポイントは、情報をうまく利用または誤用して、アメリカ人民と世界の民衆の感じ方・考え方を、ワシントンの戦略目標を支持するように操作することである。

<https://consortiumnews.com/2015/09/02/usnato-embrace-psy-ops-and-info-war/>

だから、シリア防衛軍が時には、残忍な内戦で激しく応戦したことがあるのは確かだが、その報告の一部は誇張されており、2013年8月21日に、アサド軍がダマスカスの郊外に向かってサリン・ガス攻撃を行ったという、今は信用されていない主張がその例である。現在、証拠が示しているのは、イスラム過激派が“ニセ旗”作戦を用いて、オバマを引っかけてシリア軍を爆撃させ、これがほほうまくいったということである。[See Consortiumnews.com “The Collapsing Syria-Sarin Case”]

<https://consortiumnews.com/2014/04/07/the-collapsing-syria-sarin-case/>

それより以前に、シリア危機が 2011 年にどのようにして始まったのかを調査した、独立調査報告によれば、スンニ派過激集団は、初めから反政府混合軍の一部で、シリア警察や兵士を殺していた。その暴力行為が逆に、政府の報復を挑発し、これがさらにシリアを分裂させ、アラウイ派、シーア派、キリスト教徒、世俗派が多数を占めるアサド体制下の国家で、長く、差別扱いされていると感じていたスンニ派大多数の、敵意を利用することになった。[See Consortiumnews.com [“Hidden Origins of Syria’ Civil War”](#)]

<https://consortiumnews.com/2015/07/20/hidden-origins-of-syrias-civil-war/>

明らかな解決策

当然と思える解決法は、スンニ派にもっと発言権を与えるが、少数派の保護者とみなされているアサドの辞職を直ちに条件にはしない、権力分有の取決めである。もしオバマがそのようなアプローチを取れば、アサド政府のスンニ派野党で、アメリカからカネをもらっていた者たちには、そのような取り決めに了承しなければ援助はしないと言ってやることもできるだろう。全部でなくても多くの者が、この方針に従うだろう。しかしこれは、オバマが、“アサドは除かねばならぬ” というマンダラを捨てることを要求する。

一方、公的ワシントンが、アサドとプーチンに対して強硬な発言をしている間に、シリアの軍事的情勢は悪化し続け、イスラム国と、アルカーイダの友好集団ヌスラ・フロントは、トルコ、サウジアラビア、カタール、その他、スンニ派主導のペルシャ湾岸諸国をはじめとする、アメリカの地方“同盟国”の財政的・軍事的援助を受けて、勢力を伸ばしつつある。イスラエルもまた、ヌスラ・フロントを援助し、ゴラン高原でその負傷兵を介護し、シリア内部では政府側の軍隊を爆撃している。

オバマ大統領は、イランの核計画を制限するイランとの彼の交渉——イスラエル指導者とアメリカのネオコンが盛んに爆撃を続けている中での交渉——によって、イスラエルとサウジアラビアを宥めなければならない政治的な拘束が生じ、彼らが望むシリアの“政権交替”を支持し、サウジ主導のイエメン侵略を黙認しなければならないと感じているのかもしれない。[See Consortiumnews.com [“On Syria, Incoherence Squared”](#)]

<https://consortiumnews.com/2015/09/11/on-syria-incoherence-squared/>

私が個人的に聞いたところでは、オバマは、それがスンニ過激派の勝利を避ける、唯一の希望だと考えて、プーチンのアサド政権支持の増強に合意したか——もしかしたら奨励したかもしれない、ということだった。しかし公的には、オバマはこの合理的な行動を認めるこ

とはできないと感じている。こうして、あらゆる口の角度から物を言うことに慣れているオバマは、ロシア・バッシングに加担し、この段階を、NY タイムズ社説を含め、例のいつもの容疑者たちと共有することにした。

日曜日の社説「シリアにおけるロシアの危険な軍事行動」で、タイムズは、ロシアとプーチンがアサド政府を救おうとしたと言って、激しく非難した。アサドは、2014年の、投票が可能だったシリアの地区での多党選挙に、勝利したにもかかわらず、タイムズは、彼を「非情な独裁者」だと言い、彼の「国家掌握が弱まりつつある」という事実を喜んでいるようにみえる。 <http://www.nytimes.com/2015/09/12/opinion/russias-risky-military-moves-in-syria.html?ref=opinion&r=0>

タイムズは続いて、“統一見解”を繰り返し、シリア危機はロシアのせいだと言っている。「ロシアは、アサド氏の主たる後ろ盾で、彼を非難と、国連安保理での制裁から守り、その軍隊に武器を供給している」とタイムズは主張する。「しかし最近の援助は、紛争へのロシアの介入を拡大して、新しい危険なレベルに立たせるものだ。」

ロシア軍の前線チームが侵攻してきたという報道を引用して、タイムズはこう書いた――

「米側はロシアの意図が不明だと言っている。しかし気掛かりなので、国務長官ジョン・ケリーは、今月2度、ロシア外相セルゲイ・ラヴロフに電話し、もしロシアのアサド軍を助ける攻撃作戦が激化して、万一、アメリカの訓練士官や同盟国が被害を受けるようなことがあれば、アメリカとの“正面衝突”になり得ると警告した。

「アメリカはシリアで、空爆を行っているが、これはシリアとイラクにカリフ国を樹立しようとするイスラム国に対するものであり、同時にアメリカは、過激派から奪還した領土を確保するために、穏健派反政府軍の訓練と武装に尽力している。」

ダブル・スタンダードの二乗

言い換えると、エリート・アメリカ人の頭の奇怪な世界では、ロシアが、国際的に認められた政府がテロリストの脅威と戦っているのを、助けるときには「危険な」行動だが、アメリカが、シリア領土の内部で、**その政府の承認なしに**、一方的な軍事行動にかかわるのは、全くOKだということである。

ロシアのシリア政府援助にこのような不快感を示しながら、アメリカ政府は同時に、要塞化された米国製イラク政府へ送る軍事アドバイザーとか、イスラエルやサウジアラビアのよ

うに、自分の国境を越えて攻撃を行う国々へ送る高性能兵器など、世界中の政府を恒常的に軍事援助している——ということに注目すべきである。

明らかに、タイムズは、アメリカにとって都合のよいことは、ロシアにとっては耐えられぬことだと考えている。実際もし、ロシアのシリア政府への援助が、米軍あるいはその同盟軍との“対決”になれば、たとえ、ロシア軍はシリア政府の許可を得てそこにおり、米軍やその同盟軍はそうでなくても、責めるべきはロシアだということになる。

タイムズはまた、先週の米務省の奇怪な試みを弁護している。これは、ロシアがシリア軍に物資補給するのを妨げるために、空中障壁を組織しようとするものだ。タイムズはこう述べている——

「アメリカは、ロシアとシリアの間の空路に位置する諸国家に、彼らの領空をロシア航空機に対して閉ざすように呼びかけた。もしモスクワが、アサド政府に軍事的補給をするのにそれを利用しているのではないと証明できるなら別だ。ブルガリアはそれに従った。しかし NATO 加盟国であるトルコと、自分を IS から守るのにアメリカに頼っているイラクは、これまでのところ、そうしていない。世界の指導者たちは、今月の国連総会の席で、戦闘を終結させようとする努力に対して、ロシアがもたらす危険を明らかにすべきである。」

ニューヨーク・タイムズや、他の主流米メディアが、ジョージ・W・ブッシュ大統領の 2003 年のイラク侵略や、オバマ大統領の 2011 年のリビアでの爆撃キャンペーンなど、悲惨な“政権交替”計画を推し進めた結果、悲劇的な事態を招いた記録を考えてみれば、これらの編集者たちは、アメリカの最上の机上戦士の戦争プランでも、完全に失敗することがあることを、理解できるはずではないか。

そしてこの場合には、アサドを追放して、誰かワシントンのシンクタンクの認めた政治実行者を据えれば、シリアの問題がなんとか解決されるだろうと計算する人たちがいる。しかしこれは、ダマスカスのこの世俗的な政府を崩壊させることによって、イスラム国の首切りたちや、アルカーイダの流血テロ計画集団を招き寄せることに終わるだろう。

(調査記者ロバート・パリーは、1980 年代に、イラン - コントラの物語の多くを、Associated Press や Newsweek にすっぱ抜いた。彼の最近著 *America's Stolen Narrative* は、[プリン](#)[ト](#)で、または e - ブックで (アマゾンから) 手に入れることができる。またロバート・パリーの、ブッシュ・ファミリーと、そのさまざまな右翼工作者との関係を論じた 3 部作は、34 ドルで買うことができる。3 部作には *American Stolen Narrative* が含まれている。詳細は

ここをクリック。)

https://org.salsalabs.com/o/1868/t/12126/shop/shop.jsp?storefront_KEY=1037

<https://consortiumnews.com/2015/06/15/the-bush-dynastys-back-story/>